

能代市文化財調査報告書第7集

平影野遺跡Ⅱ

—個人用住宅新築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書—

2017. 3

能代市教育委員会

能代市文化財調査報告書第7集

ひらかげのいせき
平影野遺跡Ⅱ

—個人用住宅新築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書—

2017. 3

能代市教育委員会

序

本書は、能代市教育委員会が平成２８年度に実施した能代市向能代字平影野地内に所在する平影野遺跡の第２次発掘調査報告書です。

平影野遺跡では、当教育委員会が平成２７年度に市道建設事業に伴う発掘調査を実施し、製鉄を生業のひとつとする平安時代の集落跡であることを確認、その成果を報告書として刊行しております。

市道の完成により、周辺では農地の宅地化が促進されることとなり、新たに個人用住宅の建築が計画されました。当教育委員会では事業者と遺跡の保護について協議してまいりましたが、その結果、工法の変更などを考慮しても破壊を免れない遺跡範囲について、記録保存のための発掘調査を実施することといたしました。

調査の結果、平成２７年度調査区の隣接地で新たに竪穴建物跡１軒のほか、近世に属すると思われる土坑（土葬墓）などが確認されました。

本報告書はその調査結果をまとめたものであり、文化財保護のため広く活用していただければ幸いに存じます。

刊行にあたり、調査にご協力いただきました関係各位の皆様に深く感謝申し上げます。

平成２９年３月

能代市教育委員会

教育長 須 藤 幸 紀

例 言

- 1 本報告書は、個人用住宅新築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書である。
- 2 本報告書には、土地所有者が事業主体者、能代市教育委員会が調査主体者となり実施した、秋田県能代市向能代字平影野所在の平影野遺跡の調査結果を収めた。
- 3 本報告書の執筆は山崎和夫が行った。
- 4 調査及び本報告書の刊行にあたって、次の方々から指導、助言を賜った。(敬称略)
伊 豆 俊 祐 加 藤 竜 小 林 喜 兵
- 5 調査に関する全ての資料は能代市教育委員会が保管している。

凡 例

- 1 本報告書挿図中に使用した土色表記は、農林水産省水産技術会議事務局、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帳』に依った。
- 2 挿図中の遺物実測図には器種を問わず通し番号を付した。それらは図版中の遺物写真の番号とも対応する。
- 3 土層注記は基本層位にローマ数字を用い、遺構埋土にはアラビア数字を用いた。
- 4 遺構番号は、種別を問わず検出順に201番からの連番、また柱穴様土坑については、検出順に2001番からの連番としたが、調査過程で欠番となったものがある。
- 5 挿図中の方位は磁北を示し、真北から8° 50′ 西偏している。

目 次

序

例言・凡例・目次

第1章 調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第1節 調査に至るまでの経緯

第2節 調査の組織と構成

第3節 調査の経過

第4節 遺跡の位置と歴史的環境

第2章 調査の記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第1節 調査の方法

第2節 検出遺構と出土遺物

第3章 まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

図版

抄録

第1章 調査の概要

第1節 調査に至るまでの経緯

平影野遺跡周辺では、平成27年度に開設された市道向能代5号線により利便性が向上したため、道路沿いに新たに個人用住宅の建築が計画された。事業者からは、平成28年6月9日付けで文化財保護法第93条に基づく届出がなされる一方、能代市教育委員会に対して遺跡確認調査の依頼があった。7月21日に実施した試掘調査では、平安時代の竪穴建物跡1軒や複数の土坑、多数の柱穴様土坑が確認され、8月5日付けで秋田県教育委員会から発掘調査指示があった。対象となるのは、市道と建設用地間の約60cmの標高差を解消するため、部分的な切り土造成が免れない駐車場部分約105㎡であり、市教育委員会では事業者からの依頼を受け、記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査の組織と構成

調査期間	平成28年8月30日 ～ 9月9日
調査面積	105㎡
調査主体者	能代市教育委員会
調査担当者	能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課
調査体制	能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課 課長 松橋 優悦 参事 吉岡 孝行 課長補佐 山崎 和夫（調査担当） 公民館文化係 主査 松橋 陽子 主査 播摩 芳紀 主査 相澤 真弓 業務員 三熊 真奈子
協力機関	秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室 株式会社サンワ興建

第3節 調査の経過

発掘調査は平成28年8月30日から9月9日までの期間で実施した。7月の確認調査で検出していた遺構の精査を開始、9月2日までに記録作成を終えた。最終的な遺構数は、古代の竪穴建物跡1軒、柱穴様土坑36基、近世の土坑1基、時期不明の土坑1基となった。9月8日に調査区の平板実測、9日に地形測量を実施して調査を終えた。

なお、その後の工事立会調査時に調査区北西部で柱穴様土坑3基を新たに確認したほか、10月21日付けで法93条の届出があり、立会調査指示があった住宅部分については、平成29年1月16日の浄化槽部分の立会調査で平安時代の土坑1基と柱穴様土坑1基を検出し、設置位置を変更して対応している（柱穴様土坑は記録作成）。

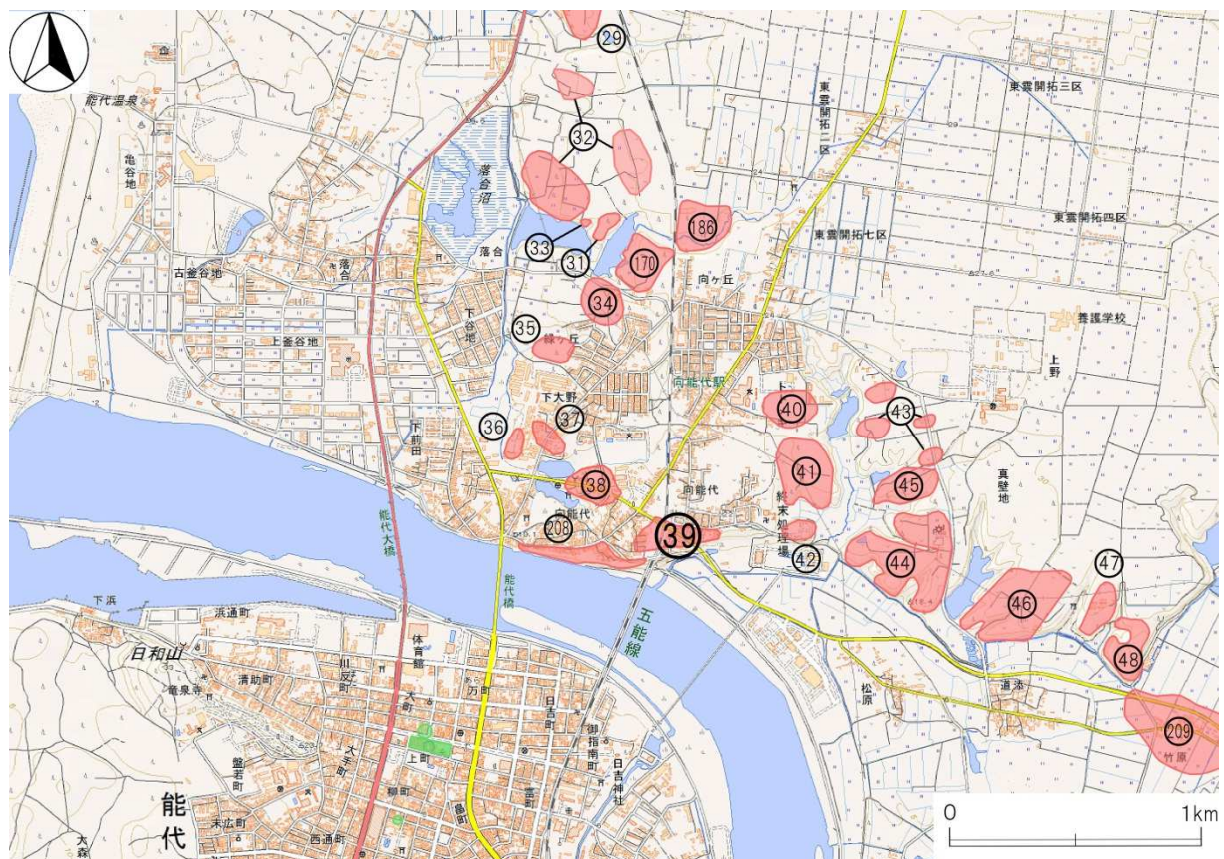
第4節 遺跡の位置と歴史的環境

平影野遺跡が所在する能代市は、秋田県の沿岸北部にあり、奥羽山脈から発し県北部を東西に貫流する米代川の下流域に市域が広がる。能代市周辺の地形を広範囲に見ると、山地の下に丘陵が形成され、その丘陵地は段丘地となりさらにその下には沖積低地が砂丘を挟んで日本海へと続いている。市内の地形は概ね東部が山地・丘陵地、西部は台地・低地となっており、台地には日本海や米代川による段丘が発達している。

遺跡は、米代川右岸の東雲台地と呼ばれる海成・河成段丘上、北緯 $40^{\circ}13'13''$ 、東経 $140^{\circ}2'17''$ に位置する。市の中心部からは、北東に1.3km、米代川の河口からは東に2.9kmの地点である。付近の標高は24m前後で、遺跡から約120m南側は比高21mほどの段丘崖となり、その下を米代川が西流している。

本遺跡では、昭和47年に県道建設事業に伴い、また平成27年には市道建設事業に伴い発掘調査が実施されている。鍛冶遺構と考えられる竪穴遺構が確認され、フイゴ羽口や鉄滓など製鉄に関連する遺物も出土している。

周辺では、本遺跡の北東約0.8kmに所在するトドメキⅠ遺跡（平成14年調査）、北西約0.5kmに所在する下大野Ⅱ遺跡（平成16年調査）、東南東2.5kmに所在する前谷地遺跡（平成21年調査）などでも製鉄関連の遺構・遺物が確認されており、地域一帯に鉄生産の痕跡が認められる。



第1図 周辺遺跡分布図

参考文献

能代市 『能代市史 資料編 考古』 1995年

能代市 『能代市史 資料編 自然』 2000年

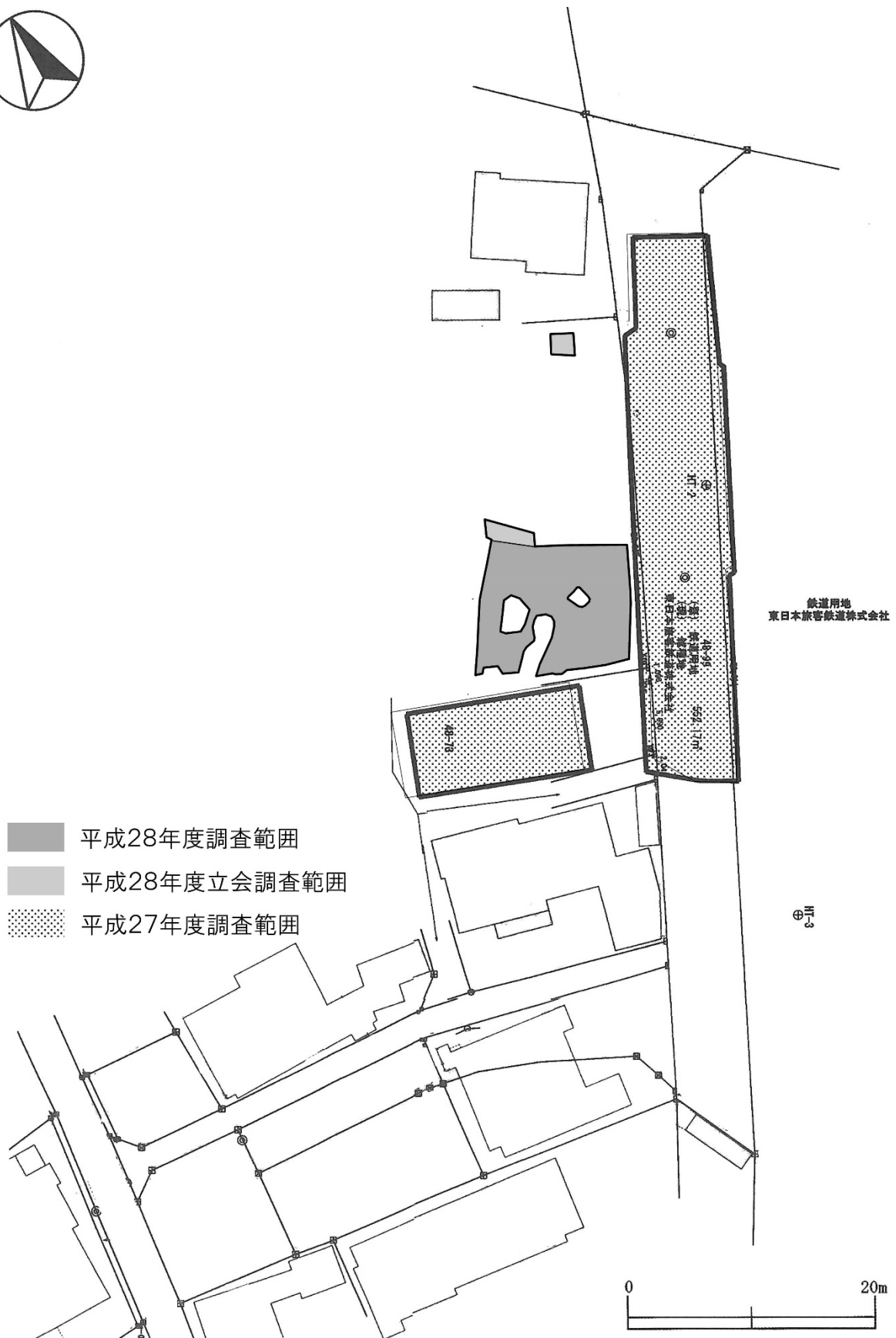
能代市教育委員会『トドメキⅠ遺跡』 能代市埋蔵文化財調査報告書第14集 2003年

能代市教育委員会『下大野Ⅱ遺跡』 能代市埋蔵文化財調査報告書第16集 2005年

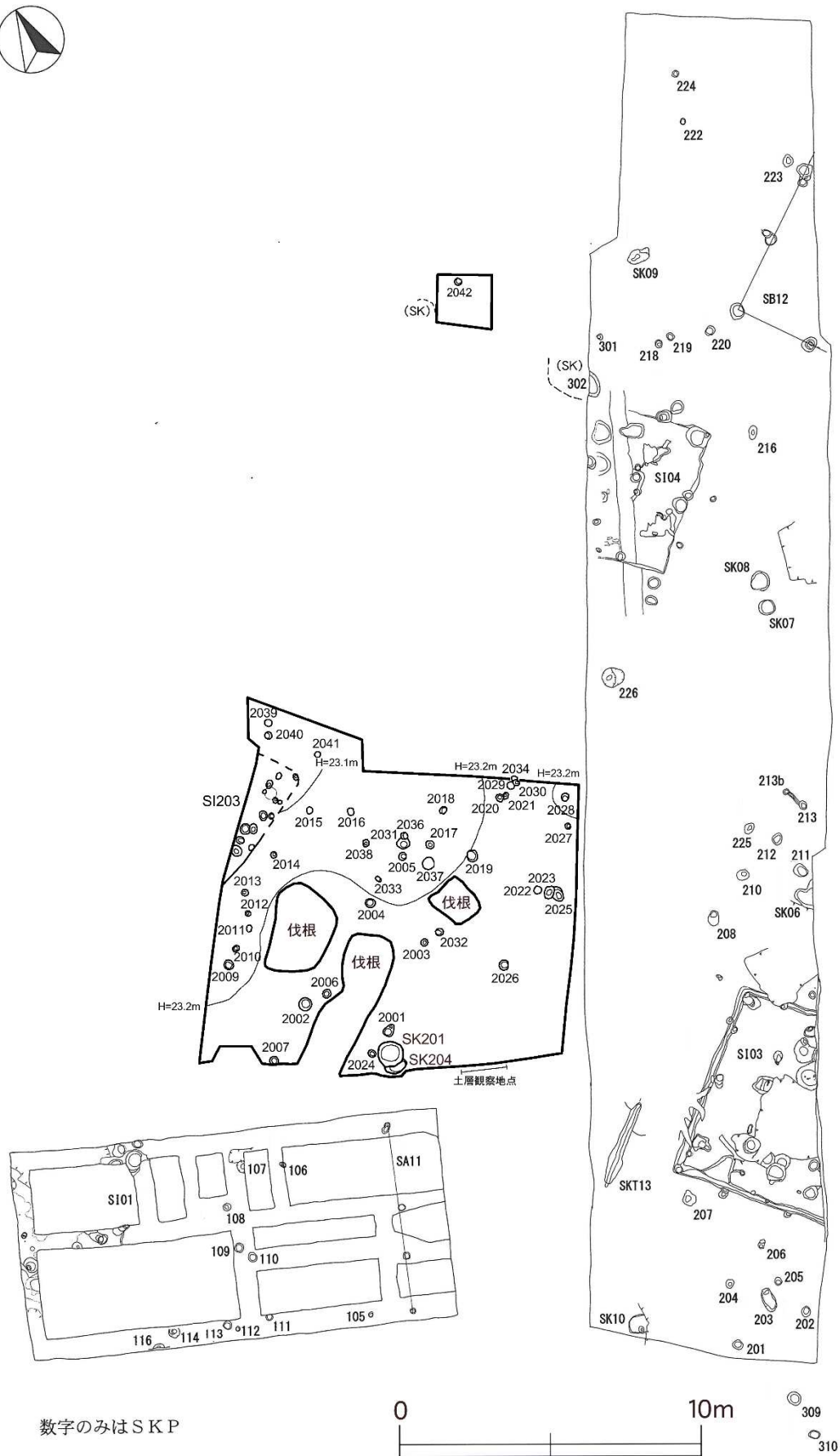
能代市教育委員会『平影野遺跡』 能代市文化財調査報告書第5集 2016年

No.	遺 跡 名	所 在 地	種 別	時 代
29	街道上Ⅰ遺跡	須田字街道上	遺物包含地	縄文
31	落合上大野Ⅰ遺跡	落合字上大野	遺物包含地	縄文中期・弥生
32	落合上大野Ⅱ遺跡	落合字上大野	遺物包含地	縄文・古代
33	落合貝塚	落合字上大野	貝塚	縄文前・中・晩期・古代
34	中大野Ⅰ遺跡	落合字中大野	遺物包含地	縄文・古代
35	中大野Ⅱ遺跡	落合字中大野	遺物包含地	縄文・古代
36	下大野Ⅰ遺跡	落合字下大野	遺物包含地	縄文・古代
37	下大野Ⅱ遺跡	落合字下大野	集落跡	古代
38	上野越遺跡	向能代字上野越	遺物包含地	縄文
39	平影野遺跡	向能代字平影野	集落跡	縄文・古代
40	トドメキⅠ遺跡	向能代字トドメキ	集落跡	縄文・古代
41	トドメキⅡ遺跡	向能代字トドメキ	遺物包含地	縄文・古代
42	金山館跡	向能代字平影野	集落跡・館跡	弥生・中世
43	真壁地上野遺跡	真壁地字トドメキ沢	遺物包含地	縄文・古代
44	真壁地Ⅰ遺跡	真壁地字野畑	遺物包含地	縄文・弥生・古代・中世
45	真壁地Ⅱ遺跡	真壁地字野畑	遺物包含地	縄文・古代
46	四郎兵衛堤遺跡	真壁地字上野	遺物包含地	縄文後・古代
47	サト館跡	真壁地字サト	遺物包含地・館跡	古代・中世
48	塞ノ神館跡	荷八田字塞ノ神ほか	遺物包含地・館跡	古代・中世
170	中大野Ⅲ遺跡	落合字中大野	遺物包含地	縄文・弥生・古代
186	上大野台遺跡	落合字上大野台	遺物包含地	縄文・弥生
208	向能代上野遺跡	向能代字上野	遺物包含地・館跡	縄文・古代・中世
209	前谷地遺跡	荷八田字前谷地	集落跡	古代

第1表 周辺遺跡一覧



第2図 調査範囲図



第2章 調査の記録

第1節 調査の方法

個人用住宅建築工事に係る土地のうち、駐車場用地で切り土工の対象となる約105㎡を調査範囲とした。この範囲は試掘調査の際に遺構確認面まで掘り下げていたため、人力で地表面を精査し遺構の検出に努めた。検出した遺構には、柱穴様土坑とそれ以外の遺構に分けて略号と検出順に通し番号を付したが、精査の結果により欠番となったものがある。

調査の記録は主に図面と写真によった。図面は、遺構については任意に設定したポイントを基準に測量を行い、1/20の縮尺で平面図、埋土断面図等の図面を作成した。基準点や調査範囲等については、1/100の縮尺で平板測量を行った。写真撮影には、フルサイズ3,600万画素のデジタルカメラを使用した。遺物については、遺構内の遺物は埋土層位ごと、遺構外の遺物は層位ごとに一括で取り上げた。なお、出土遺物量は容量1リットルのポリ袋で1袋と少量である。

基本層序は以下のとおりで、調査区西側の畑地と接する壁の土層を基準とした（第4図参照）。

第Ⅰ層 黒褐色土（10YR2/2）表土 草根多い黒ボク土 しまり弱 層厚12～20cm

第Ⅱ層 暗褐色土（10YR3/4）地山漸移層 層厚8～11cm

第Ⅲ層 褐色土（10YR4/6）地山 しまり強

第2節 検出遺構と出土遺物

1. 平安時代の遺構と遺物

（1）竪穴建物跡

S I O 3 竪穴建物跡（第4図、図版2）

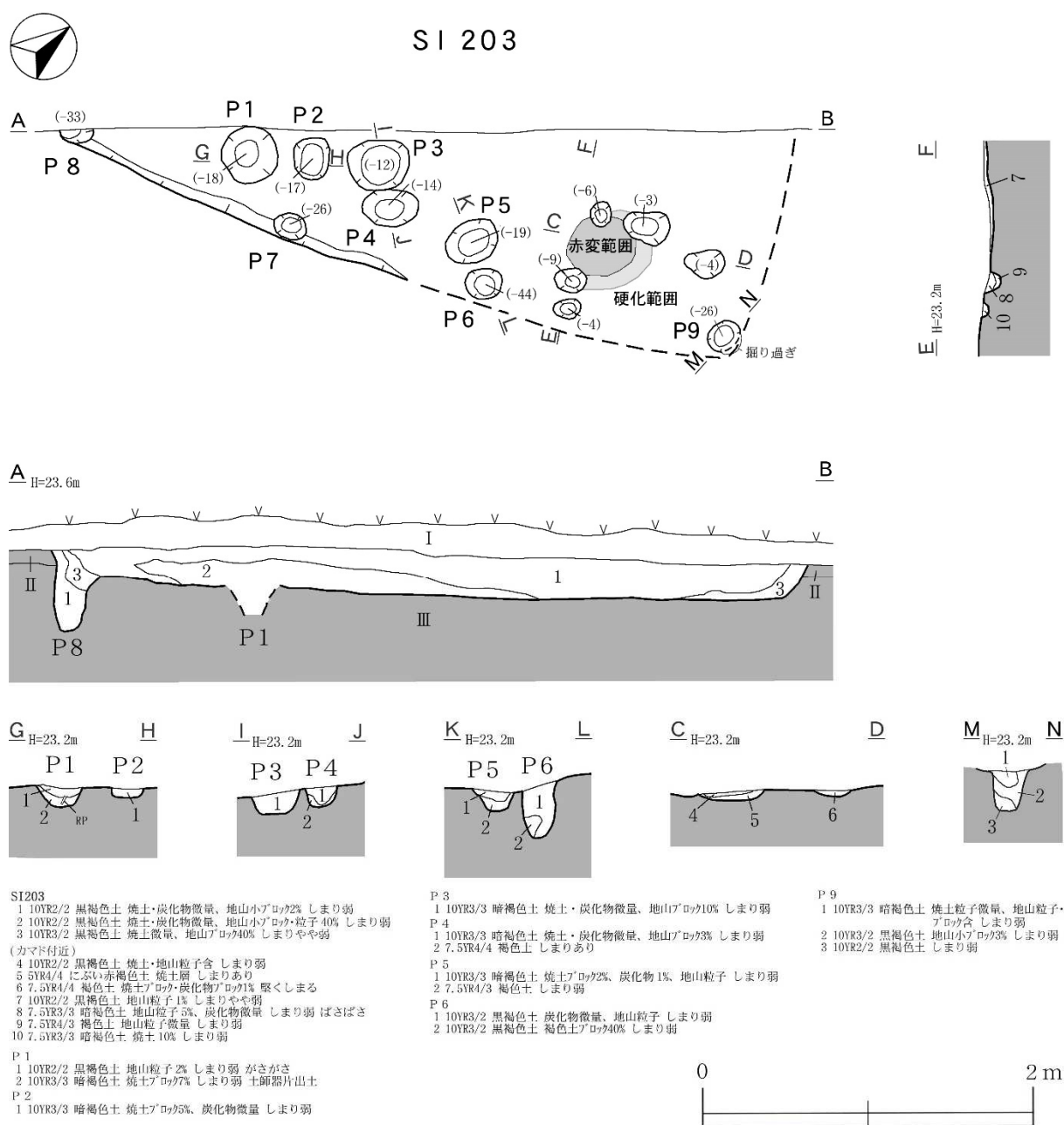
〈位置と確認〉調査区北部の地山上面で、焼土と炭化物粒子の混入する黒褐色土の落ち込みとして確認した。

〈形態・規模〉平面形は方形を呈するとみられるが、大部分は調査区外に出るため規模は不明である。また、南東コーナー部分は確認調査時の削平により失われてしまったものの、建物南壁の壁長は4.5m以上と推測され、確認面からの深さは最大6cmを測る。カマドは東壁の南寄りに設けられていたとみられ、床面に焼土の堆積とともに、周囲に袖の芯材を据えたとみられるピットが複数確認できたが、煙道は確認できなかった。床面はほぼ平坦で、深さ12～44cmのピット9基を検出した。P6～9は深さが26～44cmあり、柱穴とみられる。

〈覆土〉3層に分けられた。自然堆積で、地山ブロック、炭化物や焼土粒子を含む層が多い。

〈遺物〉土師器片（第8図1～5、図版4）や土製品（カマド支脚：第8図6、図版4）が出土している。土師器は坏と甕で、坏はロクロ成形、回転糸切で、1の口縁部には内外面に煤状の炭化物が付着している。甕は、粘土紐巻上のものとロクロ成形のものが

ある。3は小振りの甕の口縁部で、口径12.6cm、やや内湾している。6は確認調査時にカマド付近で出土したもので、直径6.6cmの円筒形で下部に逆「U字」状の切込みがある。3は埋土1層から、1はP5、2はP3、4はP1、5はP6からの出土である。



第4図 S I 203 竪穴建物跡

(2) 柱穴様土坑

SKP2001～2042 柱穴様土坑（第5～7図）

検出された柱穴様土坑は一覧で示した。遺物の出土等、時期の判定材料がないものが多いが、埋土の類似性から便宜的にすべて当該時期のものとみなした。遺物は、SKP2005（第8図7・8、図版4）、2013、2017（第8図9、図版4）、2023から土師器片が出土した。

遺構 番号	上面形状	上面規模	深さ	埋土1層	埋土2層	埋土3層	埋土4層	出土 遺物	混入物
2001	略楕円形	44×32	19	黒褐	黒褐	暗褐			1：地山粒子 2：地山粒子 3：地山B(=フロック)・粒子
2002	略円形	44×42	27	黒褐	暗褐	暗褐	黒褐		1：炭化物・地山粒子 2：地山B・焼土B・炭化物 3：焼土B・地山粒子 4：地山粒子
2003	略円形	25×23	12	黒褐	黒褐				1：地山B 2：地山斑状
2004	略円形	29×28	17	黒褐	褐				1：地山B 2：黒色土粒子
2005	略楕円形	29×26	36	黒褐	黒褐			土師器	1：炭化物・焼土・地山粒子 2：地山粒子
2006	略円形	30×26	22	暗褐	黒褐				1：地山B・粒子 2：地山粒子
2007	略楕円形	30×25	11	黒褐	暗褐				1：地山粒子 2：地山B
2009	略円形	33×32	13	黒褐	褐				1：炭化物・焼土・地山B 2：黒褐色土B
2010	略楕円形	22×18	15	暗褐					1：地山B・粒子
2011	略円形	22×21	10	暗褐	黒褐	にぶい黄褐			1：地山粒子 2：地山粒子 3：黒褐色土B
2012	略円形	19×17	8	にぶい黄褐					1：地山粒子
2013	略円形	23×22	24	黒褐	褐			土師器	1：地山粒子 2：黒色土B
2014	不正円形	30×22	11	黒褐					1：地山B・焼土・炭化物
2015	略円形	22×21	17	黒褐					1：地山B・炭化物
2016	略楕円形	27×23	15	黒褐	にぶい黄褐				1：地山粒子 2：地山粒子・黒褐色土粒子
2017	略円形	28×25	59	黒褐	黒褐	暗褐	褐	土師器	1：炭化物・地山粒子 2：地山粒子 3：地山B・粒子
2018	略楕円形	28×21	22	黒褐	暗褐				1：炭化物・地山粒子 2：褐色土B
2019	略円形	38×38	17	黒褐	黒褐				1：炭化物・地山B・粒子 2：地山粒子

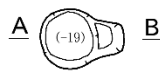
第2表 柱穴様土坑一覧（1）

遺構 番号	上面形状	上面規模	深さ	埋土1層	埋土2層	埋土3層	埋土4層	出土 遺物	混入物
2020	略 円 形	23×21	18	黒褐					1：地山B
2021	略 円 形	23×20	11	黒褐					1：炭化物・地山B・粒子
2022	不整楕円形	54×38	21	黒褐	黒～黒褐	暗褐			1：炭化物・地山B 2：地山B・ 粒子 3：地山粒子
2023	略 楕 円 形	44×36	17	黒褐	黒褐			土師器	1：炭化物・焼土 2：地山B・粒子
2024	略 楕 円 形	30×25	20	黒褐	黒	暗褐	褐		1：地山B 2：地山粒子 3：地山 B 4：地山粒子
2025	不整円形	30×27	22	黒褐	褐				1：炭化物・焼土・地山B・粒子 2：暗褐色土粒子
2026	略 円 形	34×31	12	黒褐	黒褐				1：焼土・地山B 2：地山B・粒子
2027	略 円 形	19×17	14	黒褐					1：炭化物・地山B
2028	略 円 形	20×20	6	黒褐					1：炭化物・地山B・粒子
2029	略 円 形	26×25	12	黒褐	暗褐				1：炭化物・焼土・地山B 2：地 山B・粒子
2030	略 円 形	25×19	9	黒褐					1：地山B
2031	不整円形	39×36	23	黒褐	黄褐				1：地山B 2：黒色土B
2032	略 円 形	23×22	7	黒褐	黒褐	褐			1：地山粒子 2：地山粒子
2033	略 楕 円 形	22×13	7	黒褐	黒褐				1：地山B 2：地山B
2034	略 円 形	19×18	9	黒褐					1：炭化物・焼土
2036	不整円形	25×22	15	黒褐	黄褐				1：地山B 2：黒色土粒子
2037	不整円形	42×41	4	黒褐					1：地山B
2038	略 円 形	25×22	25	黒褐	黒褐	にぶい黄褐			1：地山粒子 2：地山B・粒子 3：黒色土粒子
2039	略 円 形	18×18	8	黒褐					1：炭化物・地山B・粒子
2040	略 円 形	25×24	24	黒褐					1：焼土・炭化物・地山B・粒子
2041	略 円 形	25×21	14	黒褐					1：地山B・粒子
2042	略 円 形	25×25	24	黒褐					1：地山B・粒子

第3表 柱穴様土坑一覧（2）



SKP 2001

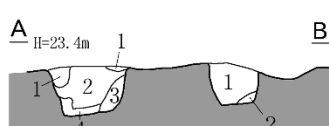
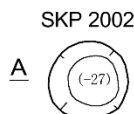


SKP2001
 1 10YR2/2 黒褐色土 地山粒子混 しまりやや弱
 2 10YR2/2 黒褐色土 地山粒子微量 しまり強
 3 10YR3/3 暗褐色土 地山ブロック・粒子斑状

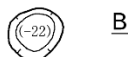
SKP2002
 1 10YR2/2 黒褐色土 炭化物・地山粒子微量 しまりやや弱
 2 10YR3/3 暗褐色土 地山ブロック度状 50%、焼土ブロック10%、炭化物微量 しまり弱
 3 10YR3/3 暗褐色土 焼土ブロック2%、地山粒子微量 しまりやや強
 4 10YR2/2 黒褐色土 地山粒子微量 しまりやや強



SKP 2002・2006



SKP 2006

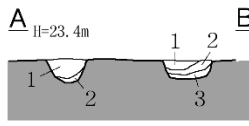


SKP2006
 1 10YR3/3 暗褐色土 地山ブロック・粒子 20% しまり強
 2 10YR2/2 黒褐色土 地山粒子微量 しまりやや弱

SKP2003
 1 10YR2/2 黒褐色土 地山ブロック、小石微量 しまり弱
 2 10YR3/2 黒褐色土 地山斑状 しまり強



SKP 2003・2032



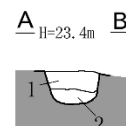
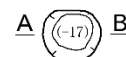
SKP 2032



SKP2032
 1 10YR2/2 黒褐色土 地山粒子微量 しまりややあり
 2 10YR3/2 黒褐色土 地山粒子微量 しまりあり
 3 10YR4/4 褐色土 地山土主体 しまり強



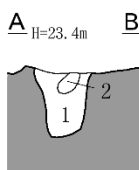
SKP 2004



SKP2004
 1 10YR2/2 黒褐色土 地山ブロック5% しまりやや弱
 2 10YR4/4 褐色土 黒色土粒子混 しまり強



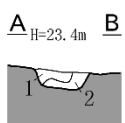
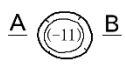
SKP 2005



SKP2005
 1 10YR2/2 黒褐色土 炭化物・焼土・地山粒子微量 しまりあり
 2 10YR2/2 黒褐色土 地山粒子 15% しまりややあり



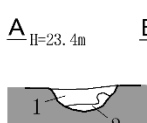
SKP 2007



SKP2007
 1 10YR2/2 黒褐色土 地山粒子微量 しまりやや弱
 2 10YR3/3 暗褐色土 地山ブロック7% しまりやや強



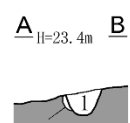
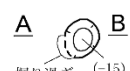
SKP 2009



SKP2009
 1 10YR3/2 黒褐色土 炭化物・焼土微量、地山ブロック5% しまりやや強
 2 10YR4/4 褐色土 黒褐色土ブロック15% 堅くしまる



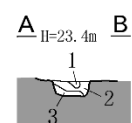
SKP 2010



SKP2010
 1 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック・粒子 5% 堅くしまる



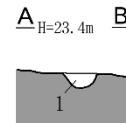
SKP 2011



SKP2011
 1 10YR3/3 暗褐色土 地山粒子含 しまり強
 2 10YR2/2 黒褐色土 地山粒子含 しまり強
 3 10YR4/3 にぶい黄褐色土 黒褐色土ブロック2% しまり強



SKP 2012



SKP2012
 1 10YR4/3 にぶい黄褐色土 地山粒子含 堅くしまる



SKP 2013・2015

SKP 2013



A H=23.4m



SKP2013
 1 10YR2/2 黒褐色土 地山粒子 2% しまり弱
 2 10YR4/4 褐色土 黒色土ブロック2% しまりやや強

SKP2015
 1 10YR3/2 黒褐色土 炭化物微量、地山小ブロック3% しまりあり

SKP2014
 1 10YR3/2 黒褐色土 炭化物・焼土粒子微量、地山小ブロック5% しまり強

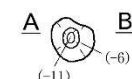
SKP 2015



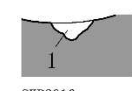
B



SKP 2014



A H=23.4m



SKP2016
 1 10YR3/2 黒褐色土 地山粒子 2% しまり弱
 2 10YR4/3 にぶい黄褐色土 地山粒子・黒褐色土粒子含



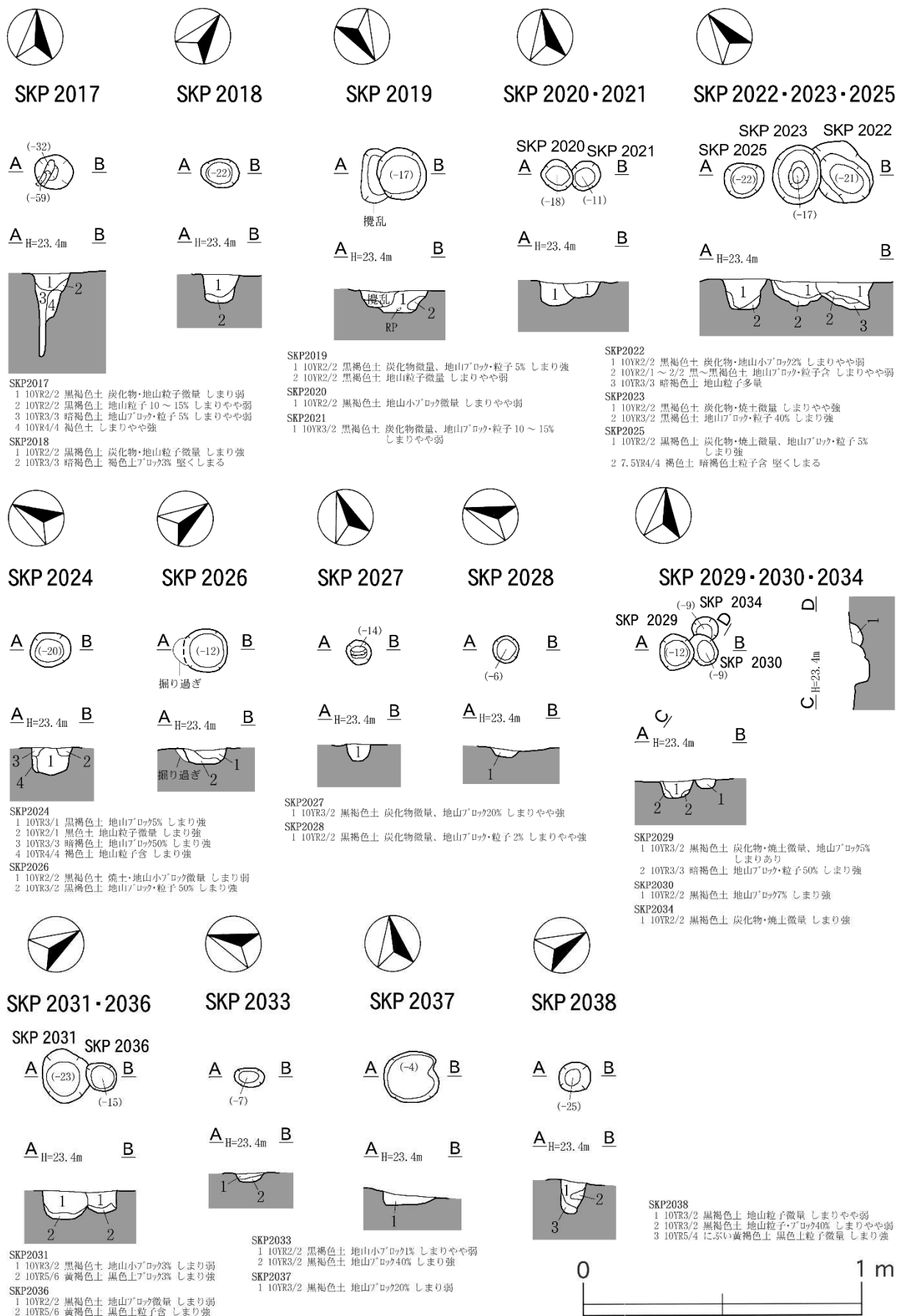
SKP 2016



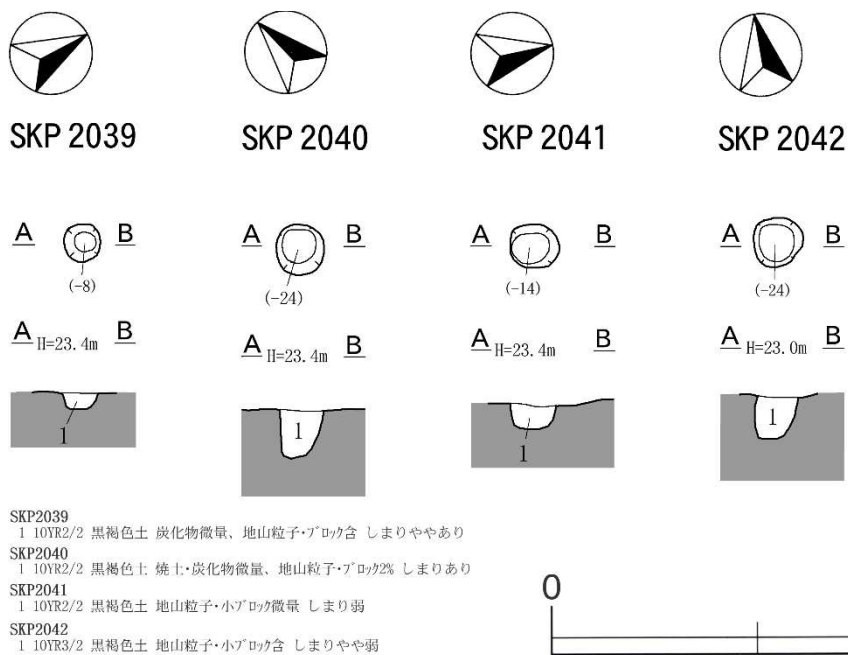
A H=23.4m



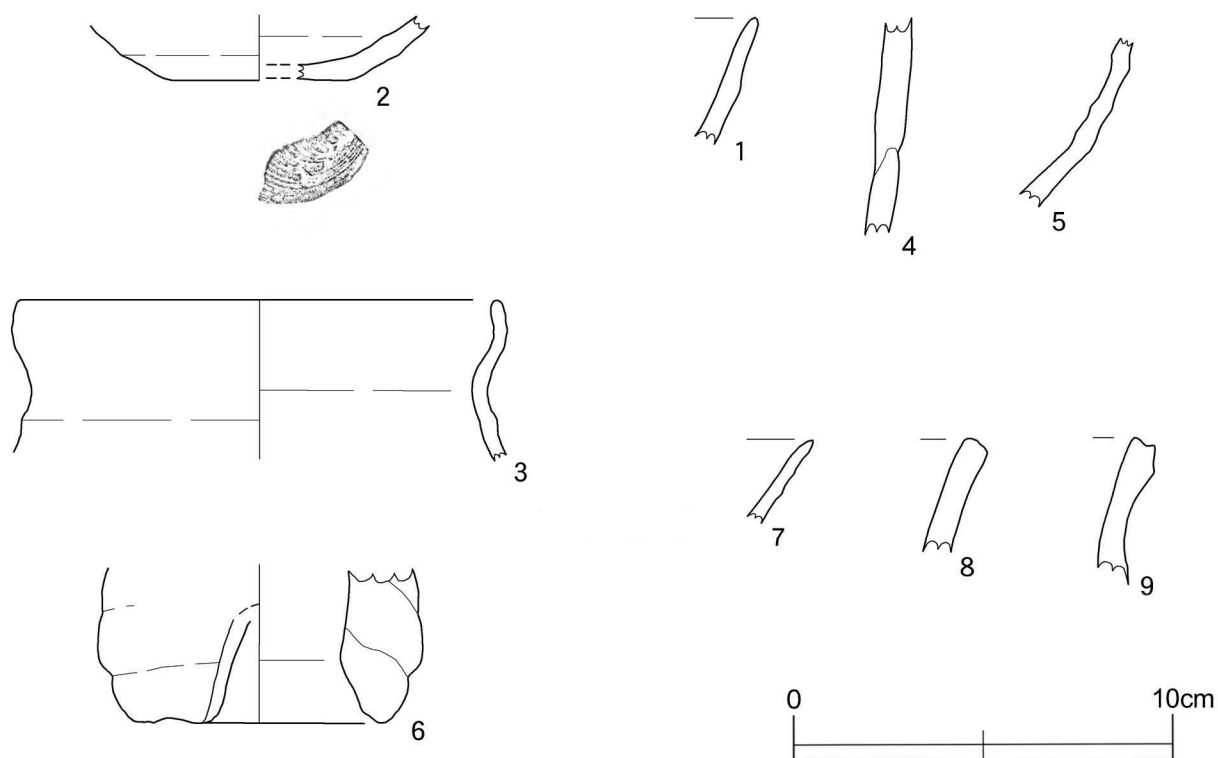
第5図 SKP 柱穴様土坑(1)



第6図 SKP 柱穴様土坑 (2)



第7図 SKP 柱穴様土坑（3）



第8図 遺構内出土遺物

2. 近世の遺構と遺物

SK01 土坑（第9図、図版3）

〈位置と確認〉調査区南部の地山上面で、地山ブロック・粒子が混入する黒褐色土の落ち込みとして確認した。

〈重複状況〉SK04土坑と重複し、本遺構が新しい。

〈形態・規模〉平面形は略円形を呈し、規模は上面 96×88 cm、底面 62×56 cm、深さは 48 cmを測る。底面は平坦で、壁はやや外傾しながら立ち上がり、上部はやや開く。

〈覆土〉4層に分けられた。人為堆積で、地山ブロック・粒子を含む層が多い。

〈遺物〉陶磁器片（第10図10～12、図版4）や土師器片が出土している。陶磁器は染付の皿やタタキ調整の跡が残る陶器片で、土師器は細片のため図示できなかった。

3. 時期不明の遺構

SK04 土坑（第9図、図版3）

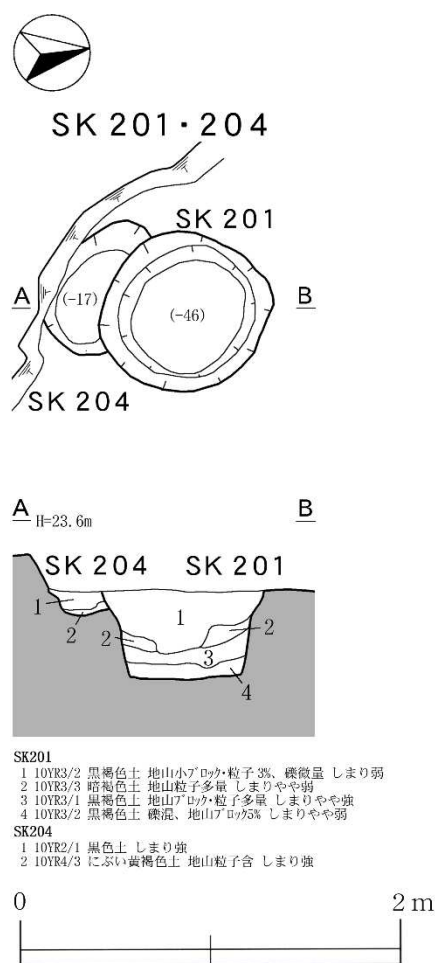
〈位置と確認〉調査区南部の地山上面で、黒色土の落ち込みとして確認した。

〈重複状況〉SK01土坑と重複し、本遺構が古い。

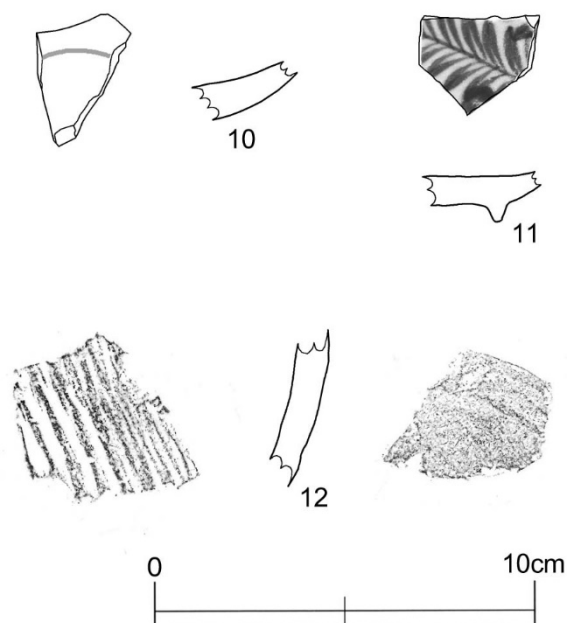
〈形態・規模〉平面形は略楕円形を呈するとみられるが、南側は一部が調査区外に出るとともに北側は重複するSK01土坑によって失われている。推定規模は、上面が長軸 78 cm、短軸推定 55 cmで、底面は規模長軸 56 cm、短軸推定 35 cmで、深さは 17 cmを測る。底面はやや窪んでおり、壁はやや外傾しながら立ち上がる。

〈覆土〉2層に分けられた。人為堆積と思われる。

〈遺物〉出土しなかった。



第9図 SK201・204 土坑



第10図 SK201土坑出土遺物

第3章 まとめ

今回の調査は、市道建設に伴う前年度調査範囲の隣接地にあたる。調査の結果、平安時代の竪穴建物跡1棟、柱穴様土坑40基、近世の土坑1基、時期不明の土坑1基を検出した。前年度調査では、鉄生産の作業場の可能性がある1棟を含め、3棟の竪穴建物跡が検出されているが、今回新たに検出した建物跡も軸線がほぼ一致しており、同時期のものと考えられる。当時の集落は、従来の想定よりかなり広範囲に展開していたものとみられるが、遺構の重複が少なく、存続期間は比較的短期間だったことが想定される。

近世とした土坑は、早桶を用いた土葬墓と推測される。人骨や副葬品は確認できなかったものの、形状や埋土の状況からその可能性が高い。秋田県内では、近世の遺跡は地域にとって重要なものを除き、基本的に発掘調査の対象とならないため、近世墓の調査事例は多くないが、大仙市の西坂戸遺跡等で類例があるようである。

参考文献

能代市『能代市史資料編考古』1995年

石川県埋蔵文化財センター『石川県埋蔵文化財情報 第33号』2015年

能代市教育委員会『平影野遺跡』能代市文化財調査報告書第5集 2016年



遺跡近景（東→）



調査区近景〔表土除去後〕（北東→）



調査区近景〔完掘状況〕（北東→）



SI203 竪穴建物跡（南→）



SI203 竪穴建物跡 土層（南東→）



SI203 竪穴建物跡 カマド 土層（南→）



SI203 竪穴建物跡 カマド完掘状況（北西→）



SI203 竪穴建物跡 床面ピット確認状況（南東→）



SI203 竪穴建物跡ピット完掘状況（北西→）



SK201 土坑 完掘状況 (東→)



SK201 土坑 確認状況 (東→)



SK201 土坑 土層 (東→)



SK204 土坑 完掘状況 (北東→)



SKP2039~2041 柱穴様土坑 完掘状況 (南西→)



SKP2042 柱穴様土坑 完掘状況 (南西→)



工事立会時 土坑検出状況 (北東→)



遺構内出土遺物

報告書抄録

ふ り が な	ひらかげのいせき に							
書 名	平影野遺跡Ⅱ							
副 書 名	個人用住宅新築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書							
巻 次	第 2 巻							
シ リ ー ズ	能代市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 7 集							
編 著 者 名	山崎和夫							
編 集 機 関	能代市教育委員会							
所 在 地	〒018-3192 秋田県能代市二ツ井町字上台 1 番 1 号 TEL:0185-73-5285							
発行年月日	西暦 2 0 1 7 年 3 月 3 1 日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯 ° / ' / ''	東経 ° / ' / ''	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひらかげのいせき 平影野遺跡	あきたけん 秋田県 のしろし 能代市 むかいのしろ 向能代 あざひらかげの 字平影野	05202	202-2- 239	40° 13' 13''	140° 02' 17''	20160830 ～ 20160909	1 0 5	開発事業 (住宅建築)
所収遺跡名	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
平影野遺跡	集落跡	平 安		竪穴建物跡 1 棟 柱穴様土坑 4 0 基		土師器・土製品		
		近 世		土坑 1 基		陶磁器・土師器		土葬墓
		時期不明		土坑 1 基				

能代市文化財調査報告書第7集

平影野遺跡Ⅱ

—個人用住宅新築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書—

印刷・発行 平成29年3月

編集・発行 能代市教育委員会

〒018-3192

秋田県能代市二ツ井町字上台1番1号

TEL 0185-73-5285

FAX 0185-73-6459